



～ 令和六年新年会長挨拶 ～



日本倶楽部会長小村武

コロナが猛威を振るった重苦しさをいつの間にか忘れ、新しい年を迎えました。本年もよろしくお願いたします。

令和6年は正月早々震度7という能登半島大地震に襲われ、さらに翌日には羽田空港で航空機事故が発生しました。真に痛ましい、波乱に満ちた辰年の幕開けとなりました。

地震に襲われた現地では、未だ余震が続き、かつ厳しい天候と環境の下で避難生活等を余儀なくされております。

被災地の皆さんに心からお見舞い申し上げます。また地震により亡くなられた方々、航空機事故で殉職された海保隊員の皆さんのご冥福をお祈りいたします。

昨年は、国際情勢ではロシアーウクライナ戦争、イスラエルーハマス紛争等重苦しいニュースの連続で、その先行きは未だ不透明のままです。

また、国内情勢では政治、経済、社会面で日々新しい事態や諸問題が発生しました。人口減少、高齢化が進む中で日本丸はどこへ行くのか、無事航海を続けられるかという不安が漂っております。

厳しい年明けとなりましたが、さて、今年はどういう年になるのでしょうか。

日本倶楽部はこうした時代だからこそ、その存在意義を発揮して、その活動を活発にしていかなければなりません。

今年はこれまで控えていた会員懇親会等の諸行事や活動を本格的に復活させ、ますます魅力ある倶楽部にしたいものです。

講演会では、昨年は、政治、経済、外交の専門家の他、羽生将棋連盟会長、相撲の鳴門親方、小山昭雄さんはじめ著名な音楽家に登場していただきました。今年は、増井講演委員長の下、委員の皆さんが叡智を絞り、引き続き会員各位の関心のあるテーマを的確に選び、その道の第一人者をお呼びして、ますます充実してくるでしょう。

また、囲碁、書道、俳句、水墨画、ゴルフ等多くの倶楽部活動も皆さんに参加していただき、ますます活性化したいものです。

昨年は、新しい会員仲間も増えました。その中で、若い民間経営者、女性の方々が多く参加してくれました。新しい会員の皆さん、是非、倶楽部に足を運んで諸行事に参加してください。

先日、当倶楽部の会報を読んでおられるある著名な財界人から「日本倶楽部は最近活動に活気があり、新しい会員も増えていきますね。」と言われました。大変心強く感じました。皆さんのご協力のおかげで感謝いたしております。

最大の課題である会館建替問題については、すでにご報告いたしましたように三菱地所との契約は昨年6月に無事終了しました。現在、次の段階に移行するため、藤本理事を委員長とする会館建替問題推進委員会を中心に具体的な作業に入っております。委員会の委員は若手(当倶楽部の水準です)の皆さんにお願いしました。

まず、来年4月に日比谷国際ビルに仮移転します。そのため仮移転先への引越し作業、移転先のレイアウトについて、現在関係委員会と調整しております。仮移転が終了し、新しいビルに復帰するのは今のところ、2029年度となっております。

「日比谷国際ビル」と建替後の復帰する「丸の内国際ビル」における日本倶楽部の設計のコンセプトは、「伝統」、「信頼」、「未来」とする案が三菱地所の若い担当者から提案されました。明治31年以来の「伝統」と昭和41年現在の会館の姿になっても変わることなく培われてきた「信頼」を令和の「未来」へつないで行くというコンセプトと理解しました。先日フェローシップ委員会で、昭和41年以来の「信頼」にさらに「交流」を加えたらどうかという提案がありました。大いに議論していただきたいと思っております。皆さんのご提案を期待いたしております。

新しいビルに復帰するまで、長い道程ですので、その間会員各位には何かとご不便をおかけすると思いますが、よろしくご協力をお願いします。

「今、日本倶楽部は面白い、活気がある、刺激がある」という倶楽部にしようではありませんか。今年もよろしくお願いたします。



令和六年一月十五日
日本倶楽部会長 小村武